



「未来の幸せ」を考える④ ～本当のやさしさとは～

校長 山田 哲哉

12月9日（金）にPTA企画部主催の講演会があり、新潟アドラー心理学会代表の大倉智美さんをご講演されました。最初に、大倉さんが「**子育ての目的**とは何でしょうか」と問い掛け、「あなたの考えをメモしてください」と言われました。私は、「**子どもが一人で生きていける力を付けること（自立）**」とメモしました。

大倉さんがスライドで示された子育ての目的は、「**自立**」。ビンゴでした。

11月18日（金）に、3年2組の道徳の授業を参観しました。教材資料は「持ってあげる？ 食べてあげる？」です。「本当にやさしい人」とはどんな人か、考える授業です。担任から次の三つの場面が示され、どれが一番「やさしい」か話し合われました。

- ① 学校から帰るとき、友達から「重いから持って」と言われ、荷物を持ってあげる。
- ② 給食時間に、自分は好きだが友達が苦手な食べ物を食べてあげる。
- ③ 友達が「宿題の答えを写させて」と言ってきたけれども、勉強を頑張してほしいと思い、教えてあげなかった。

皆さんは、どれが一番「やさしい」と思いますか。子育て等においても、場面は違えど、似たようなことがいえる場面がたくさんあると思います。

3年2組の子どもたちは、自分の考えをしっかりとち、それを発表し合い、違う考えの友達の意見にも耳を傾け、真剣に話し合いました。

①②③のどれが正解かを決めることが目的ではなく、「本当のやさしさ」について自分なりに考え、自分もそのような心で周りに接したいと思うことが目的です。

授業後の振り返りで、子どもたちは、「**やさしすぎはよくないと思いました。やさしすぎると相手の将来が大変になるからです**」「**将来やまだ先のことを考えてくれる人が、やさしい人だなあと**と思いました」などと書いていました。次のように書いた子どももいます。

やさしすぎるとその子が大人になったときに、大切なことができなかつたり身に付かなかつたりする。その時はお互いに嫌な気分にならないし楽だけど、その子のためにならないから「ダメよ」と言ってあげるのが、やさしさだと考えました。お願いされたことを断るのはいやだし勇気がいることだけど、その子のためになるから勇気を出した方がいいと思いました。

私も人のためを思って、言ってあげられる人になりたいです。でも、しっかりと理由を言って、その子が納得するように言ってあげるといいと思います。

子どもたちは、目先のやさしさ、自己満足のやさしさではなく、「自立」につながるやさしさ、将来のことを考えたやさしさに気付いています。

文頭で紹介した講演で、大倉さんは、子育てで「**困っていること**」について、「**子どもが困ること**」なのか「**自分（親）が困ること**」なのか、分けて考える大切さを教えてくださいました。また、こうもおっしゃいました。

「『**甘えさせること**』と『**甘やかす**』とは違う」と。

子どもの「自立」に向けた「本当のやさしさ」とは何か、考えてみませんか。